



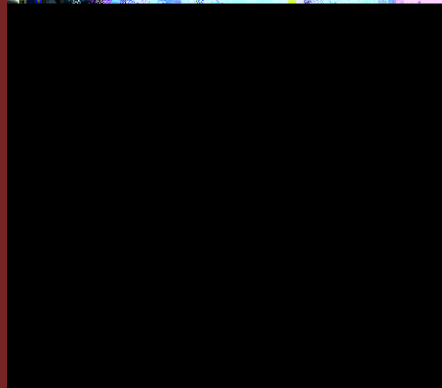
# 街中に響き渡る掛け声と熱気 下館祇園まつり

筑西の夏の風物詩「下館祇園まつり」が7月25日から28日に行われました。担ぎ出される神輿では日本最大級の重量を誇る平成神輿や、町会神輿約30基が筑西の街中を力強く練り歩き、訪れた約15万人の来場者を魅了しました。

今年の目玉は、27日に行われた平成神輿宮入道中。筑西市誕生20周年を記念し、初の試みとして、華やかな着物に格子柄のはかまなどを身にまとった手古舞<sup>てこまい</sup>と呼ばれる女性たちが高張提灯や神輿を先導しました。宮入道中が始まると、会場は一気に厳かな雰囲気。闇夜に木遣り歌<sup>きやりうた</sup>を響かせながら、羽黒神社へと向かいました。

雷雨による中断に見舞われながらも、無事4日間を終えた下館祇園まつり。にぎやかなお囃子や威勢のいい掛け声も華を添え、筑西の夏を熱く盛り上げました。





## まつりの伝統文化を子どもたちへ



7月5日、子どもたちに下館祇園まつりの歴史や文化を伝え、神輿を担ぐ楽しさを感じてもらおうと、下館小学校PTA（永島直樹会長）が下館小学校の3年生と4年生に対し

体験学習「下館の夏祭り～お神輿のお話～」を行いました。当日は本城町自治会の協力のもと、神輿担ぎ体験も実施。わっしょいの声とともに、力を合わせて体育館を一周しました。参加した児童は「みんなで声を出しながら担ぐのが楽しかった。いつか大きい神輿も担いでみたい」と目を輝かせていました。永島会長は「伝統ある下館祇園まつりの文化を、次世代を担う子ども達にもつないでいきたい」と話しました。

